

プロフィール

石川県金沢市出身。アメリカの教養大学を卒業後、ジョージ・メイソン大学紛争分析解決学修士課程修了。東京の経営コンサルティングファームでの勤務を経て、平和構築人材育成事業に参加。2014 年 5 月より 1 年間の海外実務研修として、国連開発計画 (UNDP) ルワンダ事務所にて青年・ガバナンス・市民参画の専門家として現地市民社会の支援に従事。現在は東京のグローバルコンサルティングファームにて経営統合や企業買収のアドバイザーとして勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

当事業へ応募した主な理由は、国内研修において平和構築の実践的な基礎を学び、海外研修においてフィールド経験を積むことで、今後の平和構築分野におけるキャリア形成の土台を作りたいと考えたためです。国連で平和構築に貢献していきたいとの目標があり、特に紛争後の開発や雇用創出に興味がありました。当事業のすばらしい評判も過去の事業参加者から伺う機会があり、応募を決意しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

参加して大変よかったと思っています。平和構築の知識を体系的に学ぶことができたのはもちろん、研修を通して一流の講師陣の方々とネットワークを構築することができ、更に同じ志を持つ仲間たちと出会えたことは、生涯の財産になっています。学問的な知識から実務的な見識に加えて、自衛隊の駐屯地ではセキュリティの実践的な研修もあり、全て海外研修においても役立つものでした。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

海外実務研修においては、UNDP ルワンダ事務所で青年・ガバナンス・市民参加専門家として、「ガバナンスと平和定着部署」にて、主に「市民社会強化プログラム」を担当させていただきました。更には部署を超えた業務として、「One UN (ひとつの国連)」及び「UNDP イノベーション委員会」に関する業務にも携わらせて頂きました。

市民社会強化プログラムは、ルワンダ現地の市民社会の発展と強化を図るための 5 年間の政府との共同プログラムで、私の着任とほぼ同時にプログラムの 1 年目が始まりました。初年度は 20 を超える現地市民社会団体に助成金を提供し、能力強化トレーニングを実施しました。私はその中で、プロジェクト管理・資金管理・モニタリングを担当し、トレーニング実施の際は、実際にトレーナーとしてコミュニケーションスキルや資金管理についての研修を行いました。



市民社会強化プログラムのチームと受益者と

また、国内に 20 以上ある国連機関の戦略やプログラム内容の整合性を図るために取り入れられた「ひとつの国連」イニシアティブにおいては、「説明責任を果たすガバナンスグループ」の書記官もさせていただきました。当グループは5つの国連機関（UNDP、UNICEF、UN Women、UNV、UNFPA）から成り立っており、コストやプロジェクト実施において国連の効率性を高めるための毎月の会合の企画と運営に携わらせていただきました。

更に、UNDP ニューヨーク本部のイノベーション委員会の支援を受けて、ルワンダ事務所において二つのイベントの企画運営にも携わらせていただきました。一つは政府と現地大手通信会社と共催し、若者のIT スキルと知識を活かす機会を提供するための「モバイルアプリコンテスト」。もう一つはシンガポールにある国連シンガポール公共サービス研究センター（UNDP Global Centre for Public Service Excellence）と共催した、長期計画



青年が公共サービスを改善するための
モバイルアプリ開発のコンテスト

や政策展開のための新しいアプローチを紹介するための政府高官対象のワークショップです。どちらのイベントにおいても、ニューヨークの国連本部と密に連携をとりながら準備を進め、大成功で終えることができました。

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

海外実務研修に参加できたことに大変感謝しています。UNDP カントリー事務所の仕事だけではなく、他の国連組織、更には国連本部とも協力して業務に携わらせていただき、いろいろな視点から国連がどのように仕事をしているのかを学ぶ良い機会になりました。

実務研修中は様々な業務に携わらせていただきましたが、特に印象に残っているのは、上述のモバイルアプリコンテストの公募を始めたときに、高校卒業間近の女子高生3人が、「コンテストについてもっと話を聞きたい」と、UNDP 事務所まで訪問しにきてくれたことです。20年前の虐殺で一度は荒廃したルワンダですが、IT 立国をめざして急速な発展を続けています。このような積極的で活発な若者と実際に話をすることで、ルワンダの希望ある未来を感じました。

カントリー事務所ではこのように現地の人々と直接お会いして話をすることができるのが魅力のひとつだと思います。市民社会強化プログラムにおいても、プログラムのモニタリングのためにたびたび地方出張にいき、受益者の方々と直接話しをする機会もありました。オフィスでパソコンに向かうだけではなく、現地の人々の顔を見て交流をすることで、自分も少しでもこの国の将来のために貢献していきたいと感じることができ、自身の業務に大きな喜びと使命を感じました。



モニタリングの際に受益者の方と直接対話する機会も

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

もともとは国連でのキャリアを続けていこうと考えていましたが、現在は東京の民間企業にて国内・海外の企業統合や投資案件におけるアドバイザリーの仕事をしています。民間企業に一旦戻ることにした理由は、ルワンダでの海外実務研修を通して、持続可能な発展のためのプライベートセクターの役割の重要性を感じたからです。特にモバイルアプリコンテストでは現地大手通信会社とイベントを共催し、国連と民間企業との連携の形をもっと探っていきたいと感じました。また、アフリカ貿易投資促進のための日本の官民合同ミッションがルワンダを訪問した際に UNDP から代表としてイベントに参加する機会があり、日本の民間企業の方々と企業のアフリカ進出について話す中で、発展途上国への投資を通じた関わり方についても学び経験をつけていきたいと感じました。将来的には民間企業で培った経験や知識を、国際機関においても役立てていきたいと思っています。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

当事業の参加を通して、平和構築分野でのキャリア形成の土台をつくることができただけでなく、以前は私にとってぼんやりとしたイメージだった「国連で働く」ということが、実際にどういったことなのかが大変クリアになりました。国内研修から海外実務研修まで、大変貴重な経験をさせて頂いたと思っています。事業への参加を考えている方は、ぜひ挑戦してほしいと思います。

（写真提供： 国連開発計画ルワンダ事務所）